

## 「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

### 第 112 回

『「高き自由の精神」 ～ 柔和なる者 & 勇敢なる者 ～』

2022年6月5日筆者は、午前は、wifeとKBF (KURUME BIBLE FELLOWSHIP)に出席し、昼食後、東久留米駅から飯能駅に向かい、『あんしんカフェてんねん』1周年記念イベントでの記念講演に赴いた(画像)。スタッフの方が、飯能駅に迎に来て頂き、青梅市の『天寧寺』に到着した。『天寧寺』は鎌倉時代の道元(1200-1253)(中国の宗に渡り、1227年に帰国)のゆかりの鎌倉時代に始まる曹洞宗の寺院である。鎌倉時代と言えば、浄土宗の開祖 法然(1133-1212)と、弟子の浄土真宗の宗祖 親鸞(1173-1263)が蘇って来る。筆者の田舎の実家は、浄土宗の檀家であったので、中学生、高校生時代、法然に関する本、親鸞の教えの『歎異抄』を熟読したものである。そして、京都の浪人時代、南原繁(1889-1974)が東大大学総長時代の法学部学生で、その後 牧師になられた人物に出会い、内村鑑三(1861-1930)・新渡戸稲造(1862-1933)・矢内原忠雄(1893-1961)の読書に繋がった。本当に、「人知を超えた不思議な出会いの流れ」である。

【『真理は円形にあらず、楕円形である。一個の中心の周囲に描かるべきものにあらずして、二個の中心の周囲に描かるべきものである。--- 人は何事によらず 円満と称して円形を要求するが、天然は 人の要求に応ぜずして 楕円形を採るはふしぎである。--- 患難の坩堝(るつぼ)の内に燃え尽くす火に 鍛えられて初めて実得し得るものである。』(内村鑑三)。「人生いばらの道 however (にもかかわらず) 宴会」、「人は、最後に『死ぬ』という大切な仕事が残っている」、「最も剛毅なる者は 最も柔和なる者であり、愛ある者は 勇敢なる者である」とは、「高き自由の精神」を持って医療に従事する者への普遍的な真理であろう。「他人の苦痛に対する思いやり」は、医学、医療の根本である。】と、さりげなく語った。

筆者は講演の後、個人面談を行い、それから、「やなせななスペシャルライブ」を拝聴した(添付)。シンガーソングライターで、奈良県の教恩寺住職(浄土真宗 本願寺派)とのことである。大変「ぬくもりのある曲」であった。既に、奈良では『大仏カフェ』が開催されているので、いつか、訪問したいものである。参加者とのお茶会は大変有意義な時であった。早速、「先生を囲んで、

みなさんとお話しできたのも嬉しかったです。お忙しい中、本当にありがとうございました。」との心温まるメールを頂いた。

## がん哲学外来 あんしんカフェ てんねい 一周年記念イベント

**6月5日(日)**  
**14:00~16:00**  
(開場 13:00)

入場無料 (要予約)  
会場：天寧寺本堂  
青梅市根ヶ布 1-454

定員 50名 ご予約はこちらへ

[anshincafettenei@gmail.com](mailto:anshincafettenei@gmail.com)

0428 (22) 3566 (天寧寺)

※ライブ終了後に樋野先生との  
個人面談ができます。ご希望  
の方はご予約下さい。(2、3組)



### 1 樋野興夫先生記念講演

14:00  
}  
14:45



**樋野興夫** (ひのおきお、1954年島根県生まれ)  
医学博士。順天堂大学名誉教授、恵泉女学園理事長、  
新渡戸稲造記念センター長、一般社団法人がん哲学  
外来理事長。  
2008年、「がん哲学外来」を開設。  
癌で不安を抱えた患者と家族を、対話を通して支援す  
る個人面談を続けている。

 一般社団法人がん哲学外来



### 2 やなせななスペシャルライブ

15:00  
}  
16:00



**やなせなな** (1975年奈良県生まれ)  
シンガーソングライター。奈良県教恩寺住職(浄土真  
宗本願寺派)  
2004年シングル『帰ろう。』でデビュー。30歳で  
子宮体ガンを克服した経験と、寺院で暮らす僧侶という  
視点を生かし、生死の苦悩の先に広がる救いや、いのち  
のぬくもりを伝える楽曲を数多く発表している。

主催／がん哲学外来あんしんカフェてんねい 後援／一般社団法人がん哲学外来